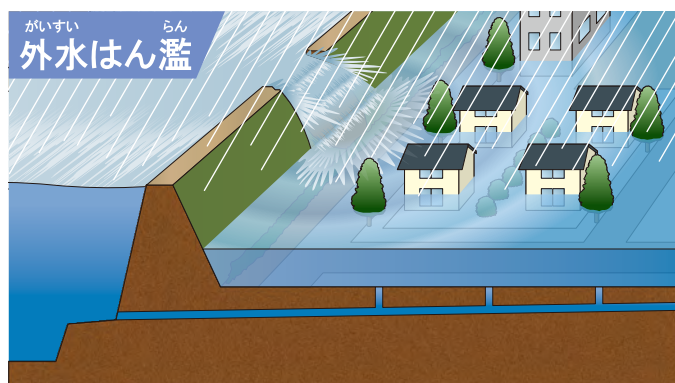
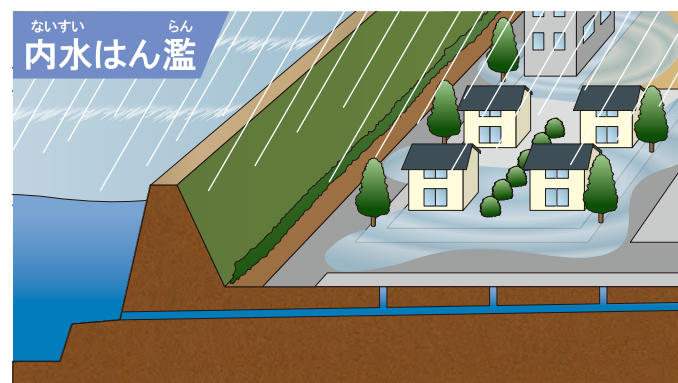


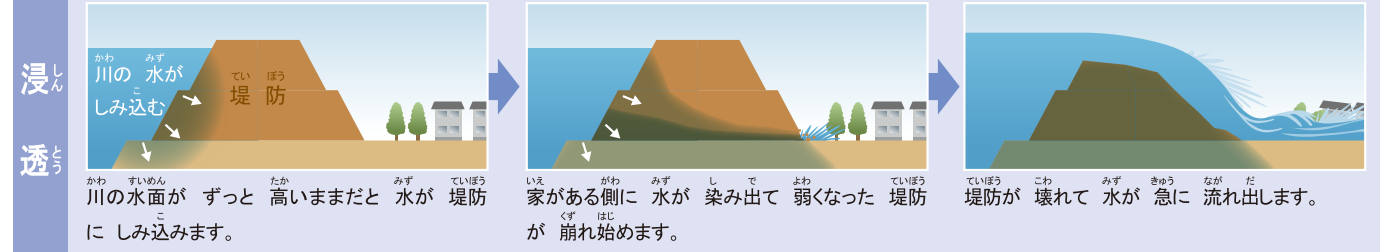
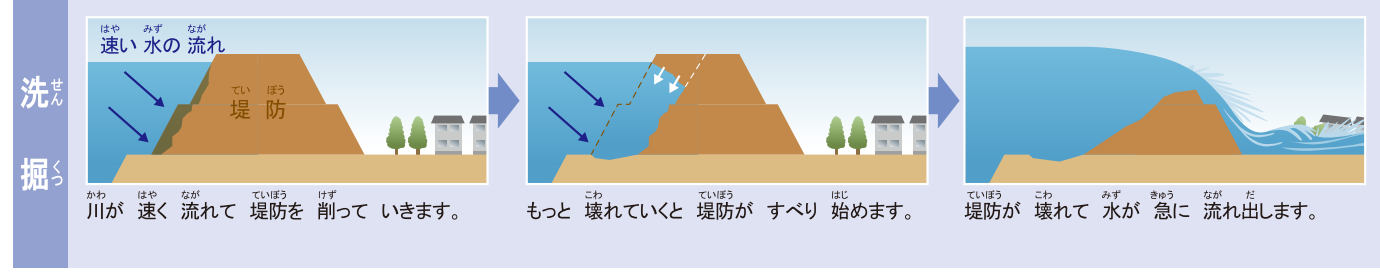
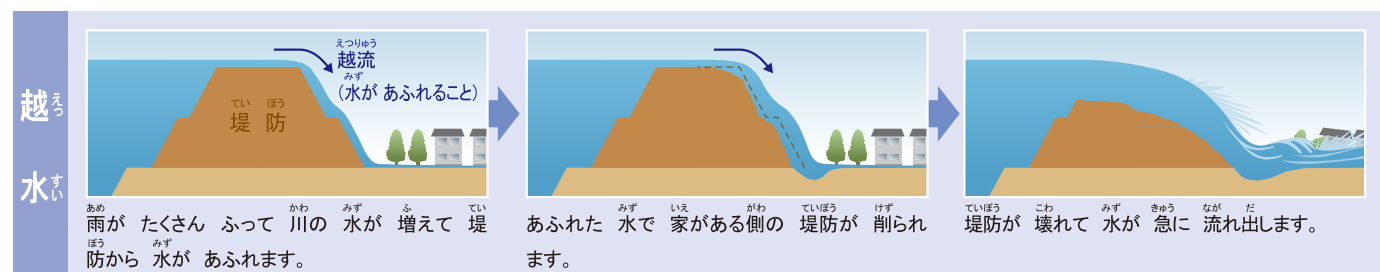
内水はん濫と 外水はん濫

洪水には 雨(あめ)が 水路(すいりゅう)や 下水道(げすいどう)などで あふれてしまう 内水はん濫(うちみずはんらん)と 川の 堤防(ていぼう)が 壊れたり 堤防(ていぼう)から 水(みず)があふれたりする 外水はん濫(がいすいはんらん)があります。まずは 洪水(こうすい)が 起こる 仕組み(しくみ)を 理解(りかい)して 避難場所(ひなんばしょ)(逃げるところ)に 安全(あんぜん)に 逃げられるように そのまでの 行きかた(いきかた)を 調べましょう。

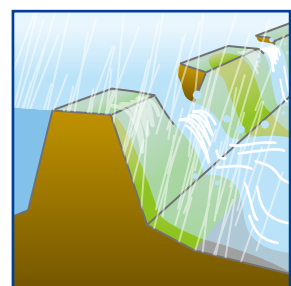


堤防の 壊れかた

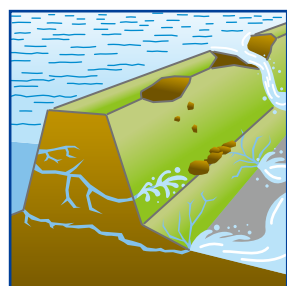
雨が ふったり 洪水(こうすい)が 起こったときの 堤防(ていぼう)の 壊れかた(こわれかた)は 3つあります。①川(かわ)から あふれた水(みず)によって 壊れる「越水(えっすい)」、②川(かわ)の水(みず)の 速い流れ(はやなが)が 堤防(ていぼう)を 削って 壊す「洗掘(せんくわ)」、③堤防(ていぼう)の 内部(うちぶ)に 水(みず)が しみ込んで 弱(よわ)くなって 壊れる「浸透(しんとう)」です。



! こんなときは 気(き)をつけてください!!



■大雨(おおあめ)のとき
大雨(おおあめ)のとき 川(かわ)の水面(すいめん)が 高(たか)くなり 堤防(ていぼう)を 超(こ)えた 水(みず)によって 壊(こわ)れることが あります。土(つち)や砂(すな)、木(き)などで 水(みず)の流(なが)れが と 止(と)まると 堤防(ていぼう)から 水(みず)が あふれやすくなり 堤防(ていぼう)が 弱(よわ)くなったり 壊(こわ)れたりする 可(た)能(ねい)性(せい)が 高(たか)くなります。



■大地震(おおじしん)のとき
大地震(おおじしん)のとき 堤防(ていぼう)が 強(つよ)い 力(ちから)を 受(う)けて ひびが 入(はい)ったり 地盤(じばん)の液状化(えきじょうか)(地面(じめん)が 液(えき)体(たい)のようにな(な)ること)によって 壊(こわ)れることが あります。小(こ)さな 地震(じしん)でも 堤防(ていぼう)の 内部(うちぶ)に でき(た)い ひびで 堤防(ていぼう)が 弱(よわ)くなり 水(みず)の重(おも)さで 壊(こわ)れること(こと)が あるので 気(き)をつけて ください。

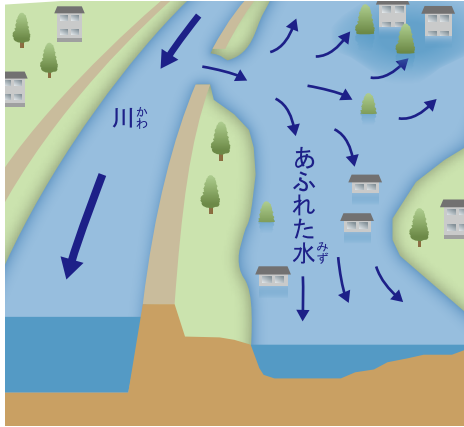
自主防災組織(じしゅぼうさいそしき)が すること

災害(さいがい)が 起(お)こったときは 安城市(あんじょうし)などが 全(ぜん)力(りき)で みなさまを 助(たす)けます。しかし 火事(かじ)のとき、道路(どうろ)が 通(と)れなくな(な)ったとき、水道(すいどう)から 水(みず)が できなくな(な)ったとき、電(でん)気(き)が つかなくな(な)ったとき など いろい(ろ)ろな こと(こと)が 広(ひろ)いところ(ところ)で 起(お)きたときは すぐ(すぐ)に 助(たす)けられ(られ)ないこと(こと)が ありま(あ)す。このよう(よう)なとき(とき)は 近(ちか)くに 住(す)んで(んで)いる 人(ひと)たち(たち)と 助(たす)け合(あ)うこと(こと)が たいせつ(たいせつ)です。あなた(あなた)が 住(す)んで(んで)いる 町(まち)の 自主防災組織(じしゅぼうさいそしき)(自分(じぶん)たち(たち)で 災(さい)害(がい)に 備(も)えるた(た)めの 集(あ)まり(まり)が行(い)う 訓(くん)練(れん)に 参(ま)加(か)して 災(さい)害(がい)のとき(とき)に 役(やく)に立(た)つこと(こと)を 覚(おぼ)えたり そのとき(とき)に 自分(じぶん)たちが 何(なに)を する(す)るか(か)を 決(き)めたりして 災(さい)害(がい)に つい(つい)い 地(ち)域(いき) (町(まち))を つく(つく)りま(ま)しょう

川の水のあふれかた

川の水のあふれかたは地面のかたちで3つに分けられます。「拡散型はん濫」、「流下型はん濫」、「貯留型はん濫」です。

拡散型はん濫



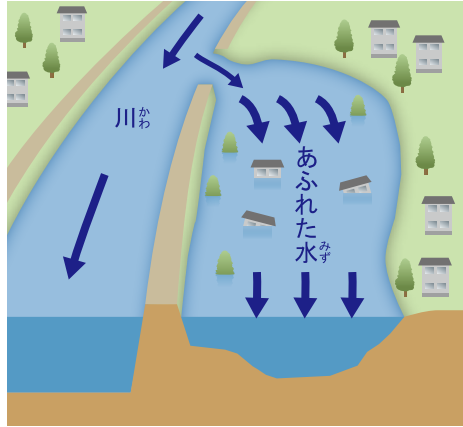
特徴

- 周りよりも低くなっている地面が広いところで起こります。
- あふれた水が遠くまで広がります。
- 堤防が壊れたところの近く以外では水の流れは遅くなります。

気をつけること

堤防から離れているところでもあふれた水が届きます。大きな川では雨がやんだ後に起こることが多いです。

流下型はん濫



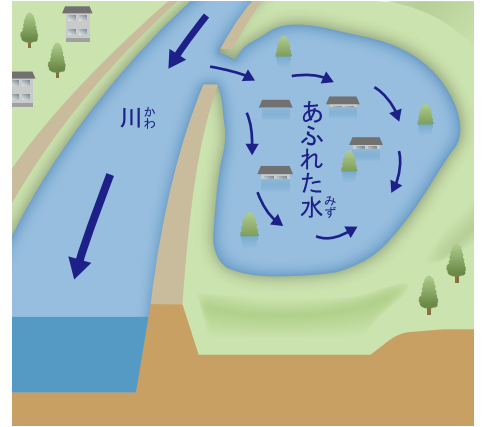
特徴

- 高いところと低いところがあって平らなところが少ない地面で起こります。
- 水が速く流れて水が深いことが多いので家が流されることもあります。

気をつけること

あふれた水は川に沿って流れます。あふれた水は広がらないまま下に流れていくので川から離れるように逃げてください。

貯留型はん濫



特徴

- 川と川がでるところやあふれた水が丘や高い地面に囲まれているところで起こります。
- あふれた水が長い時間たまります。

気をつけること

水が深くなるのが多くまた短い時間で水が深くなるのですぐにあふれた水から逃げてください。

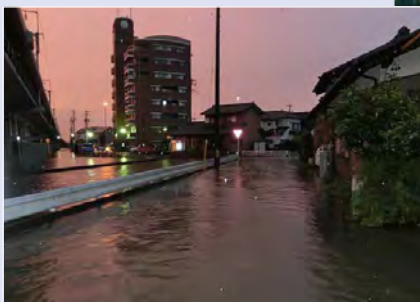
安城市で起こるはん濫はどのタイプ？

安城市では矢作川・鹿乗川・猿渡川から低い地面にひろく広がる「拡散型はん濫」が起こりますが川の近くでは「流下型はん濫」にも気をつけてください。また市の南にある油ヶ淵や矢作川・鹿乗川の近くでは「貯留型はん濫」が起こります。

安城市で起きた過去の水の災害

安城市は水の災害が起こることがあります。この頃安城市でも水の災害がたくさん起こっています。平成24年(2012年)9月11日の大雨では家の床下浸水(家の床の下まで水が入ること)が起こり雷の被害もありました。また平成20年(2008年)8月29日には平成20年8月末豪雨が起こり愛知県でたくさんの洪水が起こりました。安城市では床上浸水(家の床の上まで水が入ること)などの被害がありました。

▼平成24年(2012年)9月11日
城南町内の道路冠水状況(道路にまで水があふれてきたときのようす)



▲平成20年(2008年)8月29日
桜井町内の道路冠水状況(道路にまで水があふれてきたときのようす)

平成20年(2008年)8月29日

総雨量(降りはじめから止むまでの全部の雨の量):226mm
1時間あたりの最大雨量(一番たくさん降った雨の量):77mm(早朝)
●床上浸水:15戸 ●床下浸水:71戸
●道路が壊れた箇所:22箇所 ●川の堤防がくずれた箇所:3箇所

平成24年(2012年)9月11日

総雨量(降りはじめから止むまでの全部の雨の量):101mm
1時間あたりの最大雨量(一番たくさん降った雨の量):62mm(深夜から早朝)
●床上浸水:6戸 ●通行止め箇所数:4箇所